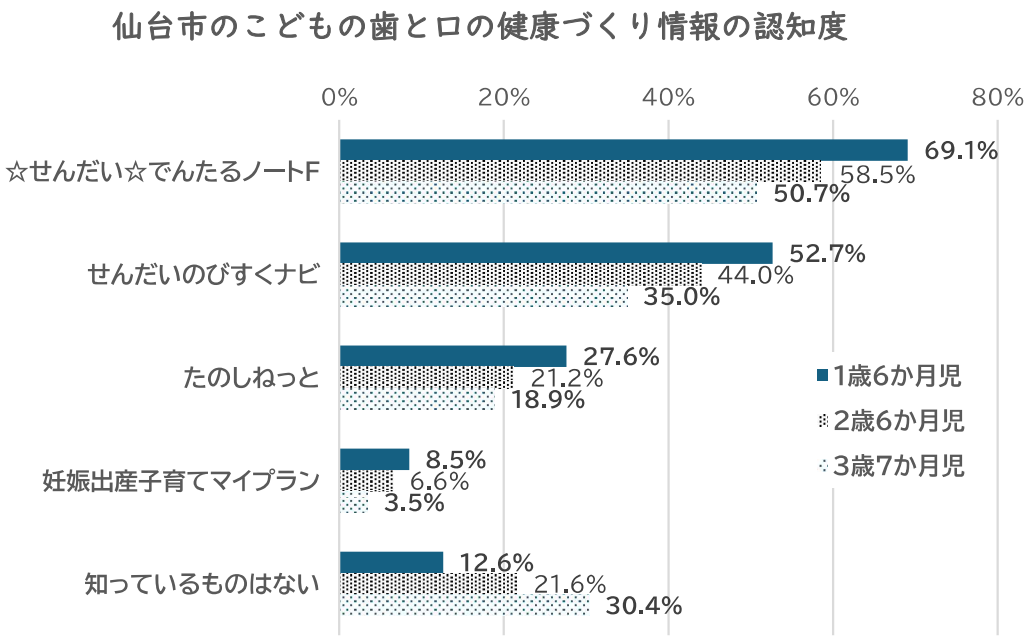


第３章　こどもの「食べる力」に係る現状と課題

１．こどもの離乳食や幼児食についての保護者の困り事と相談先について

保護者調査の結果から，こどもの食に関する困りごとは，離乳食期と幼児期で内容が変化していることが明らかとなりました。

離乳食について困った経験があったと回答した１歳６か月児の保護者が 32.5%（275 人）みられました。困りごとの内容としては，「作るのが負担・大変だった」（14.9%），「もぐもぐ・かみかみが少なかった（丸のみしていた）」（14.2%），「食べる量が少なかった」（11.7%），「食べるのをいやがった」（11.3%），「食べさせるのが負担・大変だった」（9.9%）が上位を占めていました。

この結果から，離乳食期の困りごとは，単に食事内容や栄養面だけではなく，保護者自身の調理や食事介助に関する負担と，こどもの食べ方や口腔機能の発達に対する不安が複合的に存在していることが分かります。特に，「もぐもぐ・かみかみが少ない」「丸のみしている」といった内容が多く，保護者が食べる機能の発達に関心を持ちながらも，その状態が発達上問題ないのか判断に迷っている実態を示していると考えられます。

一方，幼児期になると困りごとの内容は変化し，１歳６か月児では「あそび食い」「むら食い」「よくかまない」，２歳６か月児では「あそび食い」「むら食い」「偏食」，３歳７か月児では「食べるのに時間がかかる」「偏食」「むら食い」が上位となりました。これは，年齢の上昇に伴い，離乳食の進め方そのものへの不安から，日常的な食習慣や食行動への悩みに移行していることを示しています。

また，「肉や繊維のある野菜をかみ切れない（飲み込めない）」は，１歳６か月児 14.8%，２歳６か月児 14.0%，３歳７か月児 14.2%と，年齢が上がってもほぼ同程度にみられました。このことから，咀嚼や嚥下に関する課題は自然に解消されるものばかりではなく，一部では幼児期まで継続している可能性が示唆されます。

離乳食の困りごとの相談先については，「家族」（73.1%），「SNS 等インターネット」（52.0%），「友人」（41.5%）が上位であり，「保育所等の子育て施設」（33.8%）や「小児科」（28.7%）が続いていました。一方，「歯科」は 1.1%「行政機関」は 8.0%と極めて低い結果でした。さらに，こどもの食事について相談できる人や手段を持つ保護者は８割以上を占めていたものの，相談先の多くは家族や友人，インターネットであり，医療機関や専門職への相談割合は比較的低い状況でした。特に，食べ方や咀嚼に関する困りごとがみられるにもかかわらず，歯科が相談先として十分認識されていないことがうかがえます。

保護者自身の心配事としては，「時間におわれて食事に余裕がない」「食事を作るのが苦痛・面倒」「食べさせるのが苦痛・面倒」が各年齢群で共通してみられました。加えて，医療機関調査では，「いろいろな情報に振り回される」「食べやすい食事の作り方がわからない」といった相談も多く挙げられており，保護者は食に関する課題だけでなく，情報の取捨選択や日常生活との両立にも悩んでいることが分かりました。

以上のことから，保護者の困りごとは，「食べる量や偏食，かみ方・飲み込み方に関する不安」「食事づくりや食事介助に伴う日常的な負担」「情報の多さや相談先の分かりにくさ」の３つに大別できると考えられます。今後は，離乳食や幼児食の進め方だけでなく，「もぐもぐ」「かみかみ」「飲み込み」といった口腔機能の発達について分かりやすく情報提供するとともに，保護者が必要に応じて小児科や歯科，保育施設，行政などの専門的な相談先へ円滑につながることができる支援体制を整備していくことが重要であると考えられます。

２．こどもの食事に関する保護者自身の心配事について

保護者自身の心配事についてみると，各年齢群ともに「心配事はない」と回答した者が最も多く，１歳６か月児で 51.0%（432 人），２歳６か月児で 43.8%（373 人），３歳７か月児で 50.9%（442 人）でした。しかし，その一方で約半数の保護者は何らかの不安や負担を抱えており，食事に関する支援の必要性が示されました。

特に多くみられたのは，「時間におわれて食事に余裕がない」であり，１歳６か月児 19.4%（164 人），２歳６か月児 21.7%（185 人），３歳７か月児 19.6%（170 人）と，全ての年齢群で約２割を占めていました。このことから，保護者の困りごとは食事内容そのものだけではなく，仕事や家事，育児などを含めた生活環境の影響を大きく受けていることがうかがえます。

また，「食事を作るのが苦痛・面倒」は１歳６か月児 18.3%（155 人），２歳６か月児 20.0%（170 人），３歳７か月児 15.4%（134 人）であり，「食べさせるのが苦痛・面倒」は１歳６か月児 11.5%（97 人），２歳６か月児 17.4%（148 人），３歳７か月児 16.6%（144

人）でした。特に２歳６か月児以降では，偏食やむら食い，あそび食いなどの食行動上の課題が増加することから，保護者の負担感も高くなっている可能性が考えられます。

一方，「こどもが食べやすい食事の作り方がわからない」は，１歳６か月児 10.9%（92 人），２歳６か月児 9.3%（79 人），３歳７か月児 5.1%（44 人）と年齢の上昇に伴って減少していました。離乳食から幼児食への移行期には，食形態や味付け，硬さなどへの不安が大きいものの，経験を重ねることで徐々に解消されていく傾向がみられました。

医療機関調査においても同様の傾向がみられました。歯科医師が受ける相談では，「いろいろな情報に振り回される」48.6%，「時間におわれて食事に余裕がない」28.6%が上位であり，小児科医師が受ける相談では「こどもが食べやすい食事の作り方がわからない」63.6%，「食べさせるのが苦痛・面倒」24.2%が多く挙げられていました。このことから，保護者はこどもの食べ方だけでなく，「何が正しいのか分からない」「どう対応すればよいのか分からない」という情報面での不安も抱えていることが分かります。

以上のことから，保護者自身の心配事は，「食べ方や食事量，偏食に関する不安」「食事づくりや食事介助に伴う負担」「時間的余裕の不足」「情報の多さによる混乱」という複数の要因が重なって生じていると考えられます。そのため，乳幼児期の食事支援においては，こどもの栄養や食べる機能への支援だけではなく，保護者が日常生活の中で実践しやすい情報提供や，負担感を軽減できる支援を行うことが重要です。また，教育・保育施設，歯科，小児科，行政等が連携し，保護者が適切な相談先へつながることができる環境を整えることが求められます。

３．こどもの甘味飲料を飲む頻度について

こどもの１日に甘味飲料を飲む回数についてみると，年齢が上がるにつれて甘味飲料を飲む割合が増加する傾向がみられました。「０回（飲まない）」と回答した割合は，１歳６か月児 50.5%，２歳６か月児 36.9%，３歳７か月児 31.0%であり，１歳６か月児では半数のこどもが飲んでいなかったのに対し，２歳６か月児および３歳７か月児では３割程度という状況でした。

一方，「１回」と回答した割合は，１歳６か月児 19.4%，２歳６か月児 28.3%，３歳児 30.7%と年齢とともに増加していました。「２回以上」と回答した割合も，１歳６か月児 5.7%，２歳６か月児 9.9%，３歳７か月児 9.4%となっており，幼児期においては日常的に甘味飲料を摂取するこどもが増えていることがうかがえました。さらに，「決まっていない」と回答した割合は，各年齢群とも約４分の１から３割を占めていました。飲む回数や飲む場面が明確に決められていない家庭が一定数存在していることが分かります。

これらの結果から，年齢が上がるにつれて，こどもが甘味飲料に接する機会が増加していることが示唆されます。その背景には，行動範囲や生活環境の広がり，家族と同じ飲み物を飲む機会の増加，保護者の食習慣などが影響している可能性があります。

また，回答者自身が間食や甘い飲み物を毎日飲食している割合は，１歳６か月児４9.0%，２歳６か月児保護者 51.3%，３歳７か月児保護者 56.8%であったことから，家庭内における飲食の習慣が，こどもの甘味飲料摂取行動に影響している可能性も考えられます。

さらに，歯科医師への相談内容では「お菓子やジュースを欲しがる」が 52.9%と最も多く，教育・保育施設調査でも３歳以上児の相談内容として「お菓子やジュースを欲しがる」が 26.1%（29 施設）挙げられていました。保護者にとっても甘味飲料や甘味食品との付き合い方は，重要な課題となっていることがうかがえます。

以上のことから，甘味飲料対策においては，「飲まないこと」のみを目標とするのではなく，「飲む回数や時間を決める」「水やお茶を基本とした飲料習慣を身につける」「間食や甘味飲料の与え方を家庭内で共有する」「保護者自身の飲食習慣にも目を向ける」等が重要であると考えられます。また，乳幼児健康診査や教育・保育施設における歯科保健指導等を通じて，むし歯予防だけでなく，食習慣形成の観点からも継続的な情報提供を行うことが必要であると考えられます。

４．対象児の出生順位と離乳食に関する困りごとの有無との関連

１歳６か月児の出生順位と離乳食に関する困りごとの有無との関連を検討したところ，出生順位によって有意な差が認められました（χ^2検定，$p<0.001$）。離乳食について「困った経験があった」と回答した割合は，第１子では 41.1%であったのに対し，第２子では 26.4%，第３子以上では 17.1%でした。初めて離乳食を経験する第１子の保護者は，第２子以降の保護者に比べて離乳食に関する不安や困りごとを抱えやすいことが示唆されました。

また，出生順位と離乳食に関する困りごととの関連を検討した結果，「もぐもぐ・かみかみが少なかった（丸のみしていた）」「食べるのをいやがった」「専門職への相談希望」において統計学的に有意な差が認められました（$p<0.05$）。「もぐもぐ・かみかみが少なかった」「食べるのをいやがった」についても第１子で割合が高く，初めての育児経験の中で，食べる機能の発達や食行動に対する不安が大きいことが推察されました。さらに，専門職への相談希望についても，第１子では 29.6%と高く，第２子以降を大きく上回っていました。このことから，第１子の保護者は，離乳食や食べる機能に関する情報や相談機会をより必要としている可能性が示唆されました。

一方，「口腔機能発達不全」という言葉の認知については，出生順位による有意差は認められませんでした（$p=0.092$）。ただし，第３子以上で認知割合がやや高い傾向がみられ，育児経験の蓄積により関連情報へ接する機会が増えている可能性が考えられます。

以上のことから，第１子の保護者を重点対象として，離乳食の進め方や食べる機能の発達に関する情報提供，相談支援を充実させることが重要であると考えられます。

【対象児の出生順】

回答内容	1歳6か月児
第1子	49.5%
第2子	38.0%
第3子	10.0%
第4子以上	2.5%

【1歳6か月児保護者の離乳食について困った経験の有無（出生順別）】

出生順	困った経験あり	特になかった	合計
第1子	172人（41.1%）	247人（58.9%）	419人（100%）
第2子	85人（26.4%）	237人（73.6%）	322人（100%）
第3子	18人（21.2%）	67人（78.8%）	85人（100%）
第4子以上	0人（0.0%）	21人（100.0%）	21人（100%）
合計	275人（32.5%）	572人（67.5%）	847人（100%）

【1歳6か月児保護者の子の食事等に関する回答状況（出生順別）】

回答内容（複数回答）	第1子	第2子	第3子以上
離乳食で困った経験あり	172人（41.1%）	85人（26.4%）	18人（17.1%）
もぐもぐ・かみかみが少なかった	82人（19.6%）	31人（9.6%）	7人（6.6%）
食べるのをいやがった	59人（14.1%）	30人（9.3%）	7人（6.6%）
専門職への相談希望あり	124人（29.6%）	25人（7.8%）	10人（9.4%）
口腔機能発達不全を聞いたことがある	108人（25.8%）	101人（31.4%）	37人（34.9%）

5．保護者の甘味飲食の習慣と対象児の甘味飲料の摂取状況

保護者の間食や甘味飲料の摂取習慣と，こどもの甘味飲料の摂取状況との間には統計学的に有意な関連が認められました（χ^2検定：$p<0.001$）。保護者が「ほとんどない」と回答した家庭では，こどもが甘味飲料を「飲まない」割合は75.8%（47人）と高くなっていました。一方で，保護者が「時々」または「毎日」摂取している家庭では，こどもが甘味飲料を飲む割合が高くなる傾向がみられました。乳幼児期は保護者の生活習慣や食習慣の影響を強く受ける時期であることから，こどもの甘味飲料摂取には家庭の食環境が関係している可能性が示唆されます。そのため，こども甘味飲料対策を進める際には，こども本人への働きかけだけでなく，保護者自身の飲食習慣や家庭内のルールづくりも含めた支援が重要であると考えられます。

【1 歳６か月児保護者の間食・甘味飲料摂取頻度 × こどもの甘味飲料摂取回数】

こどもの摂取回数 / 保護者の摂取頻度	決まっていない	0回（飲まない）	1回	2回	3回以上	合計
ほとんどない（n=62）	11 人（17.7%）	47 人（75.8%）	3 人（4.8%）	0 人（0.0%）	1 人（1.6%）	62 人（100.0%）
時々（n=370）	102 人（27.6%）	168 人（45.4%）	84 人（22.7%）	15 人（4.1%）	1 人（0.3%）	370 人（100.0%）
毎日（n=415）	94 人（22.7%）	213 人（51.3%）	77 人（18.6%）	23 人（5.5%）	8 人（1.9%）	415 人（100.0%）
合計（n=847）	207 人（24.4%）	428 人（50.5%）	164 人（19.4%）	38 人（4.5%）	10 人（1.2%）	847 人（100.0%）

６．調査結果からみた今後の課題

本調査で明らかになった以下の諸課題の解決にあたっては，行政をはじめ，歯科医師会，歯科衛生士会，医師会，大学，教育・保育施設，栄養士会など，こどもの健康に関するすべての機関や団体が保護者を支援しながら連携を図り，取り組みをすすめていく必要があります。

(1) 離乳食期の困りごとは，食事内容や栄養面だけではなく，保護者自身の調理や食事介助に関する負担と，こどもの食べ方や口腔機能の発達に対する不安が複合的に存在していました。特に，「もぐもぐ・かみかみが少ない」「丸のみしている」といった内容が多く，保護者が食べる機能の発達に関心を持ちながらも，その状態が発達上問題ないか判断に迷っている実態が示唆されました。

(2) 幼児食期の困りごとは，こどもの年齢の上昇に伴い変化し，離乳食の進め方そのものへの不安から，日常的な食習慣や食行動への悩みに移行していることが示されました。また，「肉や繊維のある野菜をかみ切れない（飲み込めない）」は，１歳６か月児 14.8%，２歳６か月児 14.0%，３歳７か月児 14.2%と，年齢が上がってもほぼ同程度にみられました。このことから，咀嚼や嚥下に関する課題は自然に解消されるものとはいえず，一部では幼児期後半まで継続している可能性が示唆されました。

(3) こどもの食事について相談できる人や手段を持つ保護者は８割以上を占めていたものの，相談先の多くは家族や友人，SNS やインターネットであり，医療機関や専門職への相談割合は比較的低い状況でした。特に，食べ方や咀嚼に関する困りごとがみられるにもかかわらず，歯科医療機関が相談先として十分認識されていない状況が示されました。

(4) 保護者自身の心配事は，「食べ方や食事量，偏食に関する不安」「食事づくりや食事介助に伴う負担」「時間的余裕の不足」「情報の多さによる混乱」という複数の要因が重なって生じていました。

あわせて，子の出生順位等を考慮した，離乳食の進め方や食べる機能の発達に関する情報提供，相談支援を充実させることが重要であることが示唆されました。

そのため，乳幼児期の食支援においては，こどもの栄養や食べる機能への支援だけではなく，保護者が日常生活の中で実践しやすい情報提供や，負担感を軽減できる支援を行うことが重要です。

また，関係機関・団体が連携し，保護者が適切な相談先へつながることができる環境を整えることが求められます。

【参考】アンケート調査票

「こどもの食べる力」に関するアンケート（1歳6か月児）

保護者のみなさまへ
仙台市・歯と口の健康づくり計画（第３期）では，「こどもの食べる力や飲み込む力」の育成を支援し生涯にわたって，楽しく美味しく安全に食事をとることができるよう取り組みを進めております。
この調査は，保護者の方とお子さんの食習慣や生活習慣をお聞きすることで，乳幼児期の口腔の健康状態を把握し，今後のこどもの健康づくり施策の参考とさせていただくものです。
お忙しいところ大変恐縮ですが，アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

仙台市こども若者局こども家庭保健課　電話：022-214-8606
健康福祉局健康政策課　電話：022-214-3894

質問はQ1～Q27です。右の二次元コードにアクセスし幼児健診受診日までにご回答ください。
スマートフォン等での回答ができない場合のみ，以下をご記入のうえ健診日にご持参ください。

回答はあてはまる項目□に✓（チェック）をつけてください。

■回答者ご自身についておうかがいします。

Q1．お子さんとの関係　□父　□母　□祖父　□祖母　□その他

Q2．回答者の年代　□10歳代　□20歳代　□30歳代　□40歳代　□50歳代　□60歳以上

Q3．朝昼夕の３食以外に間食や甘い飲み物を飲食する習慣はありますか　□毎日　□時々　□ほとんどない

Q4．ゆっくりよくかんで食事をしますか　□毎日　□時々　□いいえ

■お子さんについておうかがいします。

Q5．お子さんの性別　□男　□女

Q6．お子さんの出生順位　□第１子　□第２子　□第３子　□第４子以上

Q7．お子さんが日中過ごす場所　□自宅　□保育施設　□祖父母宅　□その他

■お子さんの離乳時期の状況についておうかがいします。

Q8．離乳食の開始時期を教えてください　（　　）か月頃　（ ）に数字を入れてください　例）1歳1か月→13か月

Q9．離乳食について困ったことがありましたか　□あった→Q10.へ　□特になかった→Q12.へ

Q10．Q9.で「あった」と答えた方のみ　どのようなことで困りましたか（複数回答可）

□食べる量が少なかった　□食べる量が多かった　□食べるのをいやがった　□食べ物の種類が偏っていた
□もぐもぐ，かみかみが少なかった（丸のみしていた）　□食べ物をいつまでも口の中にためていた
□開始の時期がわからなかった　□作り方がわからなかった　□作るのが負担、大変だった
□食べさせるのが負担，大変だった　□離乳食がなかなか進まなかった　□進め方がわからなかった
□相談する人がいなかった　□相談する場所がわからなかった　□その他

Q11．Q9.で「あった」と答えた方のみ　困り事の相談先や参考にしたものを教えてください（複数回答可）

□家族　□友人　□小児科　□歯科　□保育所等の子育て施設　□行政機関　□書籍　□SNS等インターネット
□その他

Q12．授乳期の栄養方法について教えてください

□完全母乳（母乳のみ）　□人工栄養（ミルクのみ）　□混合栄養（母乳とミルク）

■お子さんの現在の状況についておうかがいします。

Q13. 卒乳しましたか　□はい　卒乳時期を教えてください（　　）か月頃　例）1歳1か月→13か月　□いいえ

Q14. 一日の間食（3食以外に食べるおやつ）の回数を教えてください（1つだけ選択）

□0回（食べない）　□1回　□2回　□3回以上　□決まっていない

Q15. 一日に甘味飲料（ジュース・スポーツドリンク・乳酸飲料等）を飲む回数を教えてください（1つだけ選択）□0回（飲まない）　□1回　□2回　□3回以上　□決まっていない

Q16. お子さんには癖（くせ）や習慣等がありますか(複数回答可)

□指しゃぶり　□おしゃぶりを使用　□爪かみ　□唇を吸う(かむ)　□口を開いていることが多い

□口呼吸　□よだれが多い　□気になることはない　□その他

Q17. ストローは使わず，自分でコップをもって水を飲めますか　□はい　□いいえ

Q18. スプーンを使って食べることができますか　□はい　□いいえ

Q19. お子さんの食事について心配事がありますか　（複数回答可）

□食べるのに時間がかかる　□はや食い　□小食　□食べすぎる　□偏食　□むら食い　□あそび食い

□テレビを見ながら食べる　□よくかまない　□飲み込めない　□食べこぼしが多い　□口から出す

□音を立てて食べる　□水やお茶で流し込む　□お菓子やジュースを欲しがる

□肉や繊維のある野菜をかみ切れない（飲み込めない）　□自分で食べようとしない

□朝食を食べないことがある　□心配事はない　□その他

Q20.「お子さんの食事に関する」保護者自身の心配事がありますか(複数回答可)

□食事を作るのが苦痛・面倒　□食べさせるのが苦痛・面倒　□時間におわれて食事に余裕がない

□こどもが食べやすい食事の作り方がわからない（形・味・温度・固さ）

□いろいろな情報に振り回される　□心配事はない　□その他

Q21. お子さんの体格をどのように感じていますか　□痩せ　□標準　□肥満

■回答者ご自身についておうかがいします。

Q22. お子さんの食事について相談できる人，手段はありますか　□ある→Q23.へ　□ない→Q24.へ

Q23. Q22.で「ある」と答えた方のみ　相談先や情報収集の手段を教えてください（複数回答可）

□家族 □友人 □小児科 □歯科 □保育所等の子育て施設 □行政機関 □書籍 □SNS等インターネット

Q24. お子さんの食事について専門家に相談したいと思いますか

□はい→Q25.へ　□いいえ→Q26.へ

Q25. Q24.で「はい」と答えた方のみ　どのような内容を相談したいですか　（複数回答可）

□偏食に関すること　□食事の量に関すること　□食べる速さに関すること

□かみ方に関すること　□飲み込み方に関すること　□おやつ（間食）に関すること

□アレルギーや食事制限に関すること　□その他

Q26.「口腔機能発達不全（こうくうきのうはったつふぜん）」という言葉を聞いたことがありますか

□聞いたことがある　□聞いたことがない

Q27. 仙台市ではあらゆるシーンでのこどもの歯と口の健康づくり情報を発信しています。

知っているものを教えてください。(複数回答可)

□たのしねっと　□妊娠出産子育てマイプラン　□せんだいのびすくナビ　□☆せんだい☆でんたるノートF

□知っているものはない

ご協力ありがとうございました。



「こどもの食べる力」に関するアンケート（２歳６か月児）

保護者のみなさまへ

仙台市・歯と口の健康づくり計画（第３期）では，「こどもの食べる力や飲み込む力」の育成を支援し生涯にわたって，楽しく美味しく安全に食事をとることができるよう取り組みを進めております。

この調査は，保護者の方とお子さんの食習慣や生活習慣をお聞きすることで，乳幼児期の口腔の健康状態を把握し，今後のこどもの健康づくり施策の参考とさせていただくものです。

お忙しいところ大変恐縮ですが，アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

仙台市こども若者局こども家庭保健課　電話：022-214-8606
健康福祉局健康政策課　電話：022-214-3894

質問はQ1～Q21です。右のニ次元コードにアクセスし幼児健診受診日までにご回答ください。
スマートフォン等での回答ができない場合のみ，以下をご記入のうえ健診日にご持参ください。

回答はあてはまる項目□に✓（チェック）をつけてください。

■回答者ご自身についておうかがいします。

Q1．お子さんとの関係：　□父　□母　□祖父　□祖母　□その他

Q2．回答者の年代：□10歳代　□20歳代　□30歳代　□40歳代　□50歳代　□60歳以上

Q3．朝昼夕の３食以外に間食や甘い飲み物を飲食する習慣はありますか：□毎日　□時々　□ほとんどない

Q4．ゆっくりよくかんで食事をしますか：□毎日　□時々　□いいえ

■お子さんについておうかがいします。

Q5．お子さんの性別：□男　□女

Q6．お子さんの出生順位：□第１子　□第２子　□第３子　□第４子以上

Q7．お子さんが日中過ごす場所：□自宅　□保育施設　□祖父母宅　□その他

Q8．一日の間食（３食以外に食べるおやつ）の回数を教えてください（１つだけ選択）
□0回（食べない）　□１回　□２回　□３回以上　□決まっていない

Q9．一日に甘味飲料（ジュース・スポーツドリンク・乳酸飲料等）を飲む回数を教えてください（一つだけ選択）□0回（飲まない）　□１回　□２回　□３回以上　□決まっていない

Q10．お子さんには癖（くせ）や習慣等がありますか(複数回答可)
□指しゃぶり　□おしゃぶりを使用　□爪かみ　□唇を吸う(かむ)　□口を開いていることが多い
□口呼吸　□よだれが多い　□気になることはない　□その他

Q11．歯科健診等で不正咬合があると言われたことがありますか　□ある→Q12.へ　□ない→Q13.へ

Q12．どのように言われましたか　□反対咬合　□開咬　□その他

Q13．お子さんの食事について心配事がありますか（複数回答可）
□食べるのに時間がかかる　□はや食い　□小食　□食べすぎる　□偏食　□むら食い　□あそび食い
□テレビを見ながら食べる　□よくかまない　□飲み込めない　□食べこぼしが多い　□口から出す
□音を立てて食べる　□水やお茶で流し込む　□お菓子やジュースを欲しがる
□肉や繊維のある野菜をかみ切れない（飲み込めない）　□スプーンを使って自分で食べようとしない
□朝食を食べないことがある　□心配事はない　□その他

Q14. 「お子さんの食事に関する」保護者自身の心配事がありますか（複数回答可）

□食事を作るのが苦痛・面倒　□食べさせるのが苦痛・面倒　□時間におわれて食事に余裕がない

□こどもが食べやすい食事の作り方がわからない（形・味・温度・固さ）

□いろいろな情報に振り回される　□心配事はない　□その他

Q15. お子さんの体格をどのように感じていますか　□痩せ　□標準　□肥満

■回答者ご自身についておうかがいします。

Q16. お子さんの食事について相談できる人，手段はありますか　□ある→Q17.へ　□ない→Q18.へ

Q17. Q16.で「ある」と答えた方のみ　相談先や情報収集の手段を教えてください（複数回答可）

□家族 □友人 □小児科 □歯科 □保育所等の子育て施設 □行政機関 □書籍 □SNS 等インターネット

Q18. お子さんの食事について専門家に相談したいと思いますか

□はい→Q19 へ　□いいえ→Q20.へ

Q19. Q18.で「はい」と答えた方のみ　どのような内容を相談したいですか（複数回答可）

□偏食に関すること　□食事の量に関すること　□食べる速さに関すること

□かみ方に関すること　□飲み込み方に関すること　□おやつ（間食）に関すること

□アレルギーや食事制限に関すること　□その他

Q20. 「口腔機能発達不全」という言葉を聞いたことがありますか

□聞いたことがある　□聞いたことがない

Q21. 仙台市ではあらゆるシーンで，こどもの歯と口の健康づくり情報を発信しています。

知っているものを教えてください（複数回答可）

□たのしねっと　□妊娠出産子育てマイプラン　□せんだいのびすくナビ　□☆せんだい☆でんたるノートF

□知っているものはない

ご協力ありがとうございました。



「こどもの食べる力」に関するアンケート（３歳児）

保護者のみなさまへ

仙台市・歯と口の健康づくり計画（第３期）では，「こどもの食べる力や飲み込む力」の育成を支援し生涯にわたって，楽しく美味しく安全に食事をとることができるよう取り組みを進めております。

この調査は，保護者の方とお子さんの食習慣や生活習慣をお聞きすることで，乳幼児期の口腔の健康状態を把握し，今後のこどもの健康づくり施策の参考とさせていただくものです。

お忙しいところ大変恐縮ですが，アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

仙台市こども若者局こども家庭保健課　電話：022-214-8606
健康福祉局健康政策課　電話：022-214-3894

質問はQ1～Q21です。右の二次元コードにアクセスし幼児健診受診日までにご回答ください。
スマートフォン等での回答ができない場合のみ，以下をご記入のうえ健診日にご持参ください。

回答はあてはまる項目□に✓（チェック）をつけてください。

■回答者ご自身についておうかがいします。

Q1．お子さんとの関係：□父　□母　□祖父　□祖母　□その他

Q2．回答者の年代：□10歳代　□20歳代　□30歳代　□40歳代　□50歳代　□60歳以上

Q3．朝昼夕の３食以外に間食や甘い飲み物を飲食する習慣はありますか：□毎日　□時々　□ほとんどない

Q4．ゆっくりよくかんで食事をしますか：□毎日　□時々　□いいえ

■お子さんについておうかがいします。

Q5．お子さんの性別：□男　□女

Q6．お子さんの出生順位：□第１子　□第２子　□第３子　□第４子以上

Q7．お子さんが日中過ごす場所：□自宅　□保育施設　□祖父母宅　□その他

Q8．一日の間食（３食以外に食べるおやつ）の回数を教えてください（１つだけ選択）
□0回（食べない）　□１回　□２回　□３回以上　□決まっていない

Q9．一日に甘味飲料（ジュース・スポーツドリンク・乳酸飲料等）を飲む回数を教えてください（１つだけ選択）□0回（飲まない）　□１回　□２回　□３回以上　□決まっていない

Q10．お子さんの癖（くせ）や習慣等がありますか(複数回答可)
□指しゃぶり　□おしゃぶりを使用　□爪かみ　□唇を吸う(かむ)　□口を開いていることが多い
□口呼吸　□よだれが多い　□気になることはない　□その他

Q11．歯科健診等で不正咬合があると言われたことがありますか　□ある→Q12.へ　□ない→Q13.へ

Q12．どのように言われましたか　□反対咬合　□開咬　□その他

Q13．お子さんの食事について心配事がありますか（複数回答可）
□食べるのに時間がかかる　□はや食い　□小食　□食べすぎる　□偏食　□むら食い　□あそび食い
□テレビを見ながら食べる　□よくかまない　□飲み込めない　□食べこぼしが多い　□口から出す
□音を立てて食べる　□水やお茶で流し込む　□お菓子やジュースを欲しがる
□肉や繊維のある野菜をかみ切れない（飲み込めない）　□スプーンを使って自分で食べようとしない
□朝食を食べないことがある　□心配事はない　□その他

Q14. 「お子さんの食事に関する」保護者自身の心配事がありますか（複数回答可）

□食事を作るのが苦痛・面倒　□食べさせるのが苦痛・面倒　□時間におわれて食事に余裕がない

□こどもが食べやすい食事の作り方がわからない（形・味・温度・固さ）

□いろいろな情報に振り回される　□心配事はない　□その他

Q15. お子さんの体格をどのように感じていますか　□痩せ　□標準　□肥満

■回答者ご自身についておうかがいします。

Q16. お子さんの食事について相談できる人，手段はありますか　□ある→Q17.へ　□ない→Q18.へ

Q17. Q16.で「ある」と答えた方のみ相談先や情報収集の手段を教えてください（複数回答可）

□家族 □友人 □小児科 □歯科 □保育所等の子育て施設 □行政機関 □書籍 □SNS等インターネット

Q18. お子さんの食事について専門家に相談したいと思いますか

□はい→Q19.へ　□いいえ→Q20.へ

Q19. Q18.で「はい」と答えた方のみ　どのような内容を相談したいですか（複数回答可）

□偏食に関すること　□食事の量に関すること　□食べる速さに関すること

□かみ方に関すること　□飲み込み方に関すること　□おやつ（間食）に関すること

□アレルギーや食事制限に関すること　□その他

Q20.「口腔機能発達不全」という言葉を聞いたことがありますか

□聞いたことがある　□聞いたことがない

Q21. 仙台市ではあらゆるシーンで，こどもの歯と口の健康づくり情報を発信しています。知っているものを教えてください（複数回答可）

□たのしねっと　□妊娠出産子育てマイプラン　□せんだいのびすくナビ　□☆せんだい☆でんたるノートF

□知っているものはない

ご協力ありがとうございました。



こどもの食べる力に関するアンケート調査
（幼児健康診査受診児保護者対象調査）報告書

令和８年 10 月

仙台市こども若者局子育て支援推進部こども家庭保健課
仙台市健康福祉局保健衛生部健康政策課